

第 57 回日本医学教育学会 JSME57 特別企画

「ポストコロナ時代の地域医療教育：持続可能な医療人材の養成から共創へ」

多職種連携と DX による北東北の地域医療教育の実践と展開

Practice and Development of the Community-Based Health Professions Education in Northern Tohoku.

鬼島 宏¹⁾、及川沙耶佳²⁾、植木重治²⁾、浅野研一郎¹⁾、長谷川仁志²⁾

1) 弘前大学・大学院医学研究科、2) 秋田大学・大学院医学系研究科

急激な人口構造変化が進みつつある我が国において、青森県・秋田県を含む北東北は人口減少・高齢化先進地域となる。そこで我々の教育プログラムは、北東北国立大学医学部 2 校（弘前大学・秋田大学）および青森県内医療系私立大学 2 校（弘前学院大学・弘前医療福祉大学）が連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育を展開することで持続可能な地域医療共同体を北東北に構築する。

弘前大学を中心に 4 つの教育プログラムを展開している。(1) 多職種連携教育では、医学科・保健学科、私立 2 大学と連携してワークショップ・早期体験実習を実践している。(2) 防災医療人材育成教育では、教養教育に防災関連科目を設置することで、医学科学生全員が履修し、防災士受験資格を取得できるプログラムとなっている。(3) 遠隔コミュニケーション教育では、弘前大学・秋田大学の両附属病院を含む臨床実習施設等を連結した画像カンファレンスシステムを導入する。(4) 地域基盤型医学教育では、5 年次に外科 4 週間、内科・小児科・産婦人科各 2 週間、6 年次にへき地医療実習施設 4 週間の臨床実習を行う。

秋田大学を中心に「6 年間一貫デジタル教育ハイブリッドプログラム」を展開している。デジタル教育としては、動画による外来・手技教育、地域医療の魅力に加えて、テレシミュレーションなどが含まれる。これらの教材は作成するにとどまらず、県内の臨床実習施設等の指導医と共有することでデジタル教育ネットワーク構築を目指している。

今回の地域医療教育の目的を達成するため、弘前大学・秋田大学で展開されている教育プログラムに関し、両大学での連携を強化してゆく。以上の取組みは、文部科学省による「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」（令和 4 年度から 7 年間：全国 11 拠点）と連動した教育であり、医学部教育の段階から医師の地域偏在および診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行うことを目的としている。